



商環境本部 CS2部5課

MIWA NANASE 三輪 七星

商環境本部 CS 2部5課に所属する三輪七星は、2021年4月に新卒で株式会社日商インターライフへと入社。何もない空間を一から仕立てていく中で、日々やりがいを感じてきた。ときに悩み、折れそうな心を奮い立たせて歩んできた三輪の道のりをたどる。

憧れの雑誌に掲載される建築物を、いつかつくりたい

専門学生時代に好んで読んでいた雑誌『商店建築』。そこに掲載されていた建築物を日商インターライフが手掛けていたと知ったとき、「ここで働こう」と決意したという。

会社の経営理念にある「私達は、あらゆる人々に感動と喜び溢れる快適空間を提供し、社会に貢献します。」という言葉にも心ひかれた。「いつか自分もこういった物件を手掛けてみたい」と考え、三輪は日商インターライフの扉を叩いた。

オフィス内装に懸けるやりがいと自負

現在は、オフィスビルの内装に特化した業務を行っている。商環境本部は、企画からアフターフォローまで一気通貫で担う部署だ。通常の商業系ビルとは違い、その職場の人間以外は目にすることがない空間を手掛ける分、一見すれば「華がない」ように思われがちだが、縁の下の力持ちとして働く人たちを支えているという自負がある。

スケルトンと呼ばれる何もないガランとした空間を、一つひとつ埋めていくように内装を形作っていくのが、何よりのやりがいだと語る。最近では朝7時ごろに出勤し、頭が冴えている時間帯に多くのタスクを片づけるようにしている。誰もいない仕事場で黙々と作業をするのも悪くない。「自分は今、仕事と向き合っている」という感覚を強く感じられるからだ。

まずは自分で考えるところからスタート

入社したばかりのころは、右も左もわからず戸惑うことも多かったが、職人さんたちからも指導を受け、徐々に自分で考える癖がついていった。ときには厳しい指導に心が折れそうになることもあったが、自分で調べて知識を身につけると、職人さんたちとも対等に話ができるようになる。そうするとお互いにコミュニケーションが深まり、良い関係性を築けるようになっていった。

自分で調べてもなおわからないときには、その業務の専門家たちにアドバイスを求める。一からすべてを頼るのではなく、自分で解決できるところまでしっかりと進み、それ以上の道のりに水先案内人が必要だと判断したときにSOSを出すようにしている。

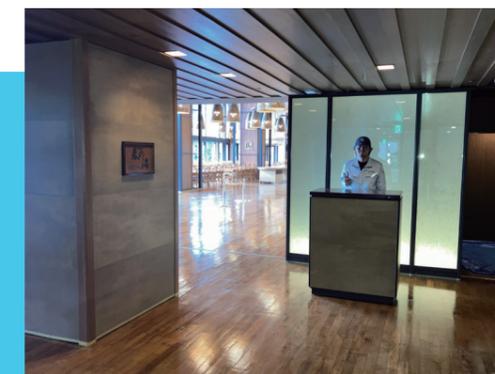
部署異動を経て感じた自身の進化

現場の状況をすべて把握し、それをもとに積算や見積もりを作成し、お客様に提案するという一連の流れの中で、責任感もより一層強く持つようになった。利益を上げるためにどのように現場運営をしていくべきかを考えるうちに、視野も広がっていく。

2課から5課へ異動し、新たな環境で挑戦を続ける中でさらに成長を実感できたという。かつては、うまく対応できないときに焦りからトラブルにすぐに対処できず、ほかの業務に支障が出てし



▲美味しいお酒がリフレッシュに



▲仕事の合間に撮影した一枚

まったこともあったが、今は「あたふたしても仕方ない」と、冷静さを保てるように。環境の変化に伴う苦労はあるものの、それを乗り越えた結果、新たな世界が見えてくる。

次代を担う後輩の成長を支えるために

今後の目標は、今の業務のスキルをさらに高めていくことだ。

「3年後には、大きなプロジェクトにも携われるようになって利益を生み出せるようになりたい。ゆくゆくはVectorworksを活用して、施工図や内装のおさまりの精度も高めていければと思っています」。

さらに、新人教育についても先輩として目指すべきところがあるという。割り振る仕事をわかりやすく伝え、その上で成功体験を積ませてあげたい。なぜこの仕事を頼まれたのか、その意味もしっかり説明すれば、一つひとつのタスクをただ単にこなすだけでなく、深く考えながら進めることができる。若手が無理なく、生き生きと働ける環境をつくること。それが先輩としての役割だと、三輪は考えている。

新しいスキルを身につけるのは一朝一夕にはいれないが、それでもコツコツと知識を蓄え、主体的に行動していくことで確実に成長してきた三輪。その道は日商インターライフの発展に寄与していくに違いない。

社長の言葉

上期の振り返り

業績見通し(7月25日時点の見通し※FM事業本部含む)

■ 全社見通し

売上高：49億48百万円

(計画比111.6% 前年比101.0%)

売上総利益：8億64百万円

(計画比107.2% 前年比106.2%)

営業利益：営業利益3億74百万円

(計画比125.9% 前年比93.8%)

計画を上回る順調な推移です。FM事業本部を含めた売上高・売上総利益は、前年比でも上回る推移です。

上期は全部門で計画オール達成！(※FM事業本部は統合後、第2Qオール達成)しかしながら、全部門は前年対比で下回っています。これは実態として捉えておいてください。

前年越え、売上100億越えを目指す想いは、常に持ち続けています。日商インターライフが着実に成長し続けるチームであるよう考え、実行していくのが社長の役目であり、役員のミッションでもあります。

前年あと一歩で届かなかった売上100億をどうにか全社員で達成したい！

攻めの組織変更

第53期上期は、オフィス改装が完了し、将来を見据え、新たな組織体制でスタート。特に、商環境本部は「攻めの大改革」を行い、長野・平野・櫻井部長を配置し、6月1日より執行役員に任命。また、押尾・高橋副部長に、それぞれCS一部・二部の運営を任せることになりました。

まだうまくいかない部分もあると思いますが、新たなチャレンジをしてきていることを頼もしく思っています。成功するまでチャレンジする姿を社員に見せ続けてください。

本気でチャレンジしてうまくいなくても、担当役員が責任を取るので、思いっきりやってください。そうでないとポジションに就いた意味がありません。部下の皆さんは上司にもっと求めてください。提案・不満・文句があれば、上司に直接どんどん言ってほしいと思います。課長・部長はそれを受け止める度量を身につけてください。部長の捌け口は全部S本部長がやります。それを含め、社長がすべての受け皿になり、安心して何でも言い合えるチームを造っていく！

專業本部は、課長の自覚と一体感が高まったと感じています。残り半年で来期の部長を決めます。同時に新たな課長も誕生します。全員で競い合ってください。

FM事業本部統合により、新たな武器を手に入れ、今後の日商インターライフの成長に一翼を担う存在となりました。3か月が経過し、雰囲気慣れてきたと思います。各部門との「連繫」する機会を積極的に作り出していきます。今年はとにかく、成果として繋がるまで接触機会を増やしていきます！

新たなステージへ

52期は今までにない大型案件を受注しました。その実績と営業の成果もあり、53期は桁違いの大型案件引き合いがきています。受注できるかどうかはさておき、打席に立つ機会を作れるようになったことに大きな意味があります。今までなら話すらこないし、きても「できない」と断っていました。

「やろうとする意志」「どうかしようとする想い」「どうすればできるかという思考」。成果につながるまでには時間がかかるかもしれないが、打席に立たない限り、チャンスを掴むことはできません。

昨年の大型案件現場で自分たちの強さを知ったと思います。ただ、もっと「連繫」できるはず！

桁違いの大型案件を受注した際、日商インターライフの本当の強みの真価が発揮され、本当の意味でのワンチームができていくと思っています。部門の垣根を超え、社員が「連繫」し、協力業者様・職人さんと一丸になって、進んでいく光景を思い浮かべるだけで、ワクワクが止まりません。

そんな未来を一緒に造っていこう！

数々の現場を支える
精鋭部隊

専門工事部 建材一課 を紹介します

普段なかなか知る機会のない他部署の業務。
今回は専門工事部 建材一課にフォーカスします！
チームの裏側を小川課長に
語っていただきました。

専門工事部 建材一課
課長

お がわ だい すけ

小川 大補さん



建材一課の概要

年齢の壁なく協力し合う、5名のプロフェッショナル

建材一課は、私を含めて5名のチームです。内装の下地を作る軽鉄・ボード工事を主軸に、見積もりから材料と職人の手配、現場管理、請求までを一貫して担っています。20代後半から60代までと幅広い年齢層のメンバーが揃っていますが、年齢の壁は一切なく、みんなで冗談を言い合える和気あいあいとした雰囲気です。

チームのここが良い！

個々の責任感と 自発的な協力体制が強み

メンバー一人ひとりが自律しており、任された仕事をきっちり完結してくれるため、最小限の管理で多くの案件に対応できるところが強みです。また、課の垣根を越えてメンバー同士が自発的に助け合う文化があり、部署全体で協力し合える環境ができています。

チームで注力していること

人材育成と、 より高い次元での顧客対応

チーム全体の対応力向上につなげるため、ベトナムから来た社員の育成に力を入れています。また、お客様との関係深化も重要視しており、担当者ある程度固定して長期的な関係を構築。「できない」ではなく、「こうすればできる」という代替案を提示できる提案力を強化しています。

岡田さん



チーム全体の課題

個々のスキルアップと 次世代リーダーの育成

人員不足を補うための個々のスキルアップが急務です。担当顧客との関係を深め、売上を拡大・新規開拓することを各社員に求めています。また、中堅社員は、将来のリーダー候補として、年間売上1億8千万円という目標を常に意識し、それを超える成果を出せるほどに成長することを期待しています。

チームの今後の目標と 激励のメッセージ

現状に甘えず、 未来を見据えて共に成長を

チームの皆さんには、それぞれの目標に向かって、仕事を楽しくしてくれることを心から願っています。どうすれば目標を達成できるのか、諦めずに考え続けることが重要です。今の部署は、課の垣根なく何でも相談し合える素晴らしい環境です。この環境に甘えることなく、一人ひとりが「将来どうなりたいか」を考えながら、これからも共に成長していきましょう。

石谷さん

イエンさん

宮野さん



思わずほろり

私の隣の

エンジェル社員

誰かに見守られている。そう感じるだけで、明日を生きる勇気が湧くことがあります。今回はお二人の社員に、同僚の素敵な行動について教えていただきました。

私が紹介します!

大阪営業所

はまやす

濱安 ほのかさん

エンジェル社員

大阪営業所 チーフ

あおやま ちあき

青山 千秋さん



私が学んだのは……

気配りと思いやりの大切さ

誰かの優しさに触れると、心がふっと軽くなります。この経験を通じ、私も周囲に自然と寄り添える人になりたいと感じました。

ここが素敵

弱っている私にいつも気づいてくれるところ

仕事を立て込んで余裕がなくなっているとき、体調が優れないとき、あるいは失敗して落ち込んでいるとき。私の「ちょっとした変化」に、先輩はいつも気づき、さりげなく声をかけてくれます。「大丈夫?」の優しい一言に救われたことが、これまで何度もありました。

Message

いつも親身に話を聞いてくださり、ありがとうございます。多くの仕事を抱えながらも、一つひとつ丁寧に遂行する青山さんを尊敬しています。

エンジェル社員

管理部の皆さん



私が紹介します!

管理本部 管理課

すずき ゆか

鈴木 侑香さん

ここが素敵

思いやりと気遣いのチームプレー

私が学んだのは……

周囲に目を配り、アンテナを張ることの大切さ

月初の締め作業も、互いが柔軟に手を差し伸べ合い、皆で乗り越えています。

入社当時、わからないことばかりの私をすぐにフォローして下さったこと、とても感謝しています。今でも、あたふたしていると助けていただくことがあります(笑) 部署にかかわらず、困っている人を見つくと先回りしてフォローする。その共通意識に心を打たれました。

Message

いつもたくさんフォローしていただき、ありがとうございます。私も皆さんのお役に立てよう頑張ります。これからもよろしく願いいたします!

会社の防災対策と 災害発生時の行動指針

もしも勤務中に大規模な地震が発生したら、どう行動しますか？パニックにならず、自分と同僚の安全を守るためには、会社のルールを正しく理解し、一人ひとりが備えておくことが不可欠です。会社の防災体制と、いざというときのために、皆さんに知っておいてほしいことをお伝えします。



会社の防災備蓄

各拠点の備蓄品と保管場所

会社では、本社・田端新町ビル・大阪営業所・越谷事務所の4拠点で防災用品を備蓄しています。主な備蓄品は、10年保存水、ビスケットなどの食料、簡易トイレの3点です。本社・田端新町ビル分は田端新町ビルの地下に集約しており、水は約600L、ビスケットは360食、簡易ト

イレは960回分を確保。そして、大阪、越谷の各拠点にも、それぞれの従業員数に応じた水・食料・簡易トイレを備えています。このほか、本社の各部署には懐中電灯やラジオも配備しています。

大規模地震発生時の行動

オフィス勤務中

オフィス勤務中に震度5強以上の地震に被災した場合、むやみに帰宅しようとせず、まずは会社に留まり、身の安全を確保してください。会社として災害対策本部を立ち上げ、収集した情報に基づき指示を出します。

現場勤務中

現場で被災した場合は、まずご自身の安全確保を最優先してください。そのうえで、基本的には元請けの企業の指示に従います。当社が元請けの現場では、責任者が冷静に状況を判断し、会社の指示を仰ぐことが重要です。いずれの場合も、安否確認システムでご自身の状況を報告し、指示があるまで待機することが原則となります。

災害発生後の安否確認体制

全社員に自動で通知、年1回の訓練も実施

災害発生時、社員の皆さんの安否は「安否確認システム」を使って確認します。震度5強以上の地震が発生すると、登録された個人の携帯と会社の携帯に、安否状況の報告を求める通知が自動で送信されます。このシステムは海外のサーバーを利用しているため、国内の通信網が混乱しても連絡が付きやすいのが特徴です。**通知を受け取ったら、必ずご自身の状況を入力し、返信してください。**会社からの指示もこのシステムを通じて発信されます。いざというときに確実に使えるよう、毎年9月1日の防災の日に全社員を対象とした送受信訓練を実施しています。

＼社員一人ひとりができる備えと防災意識／



自宅での備えと日頃からの心構え

会社の対策に加え、皆さん一人ひとりの備えも重要です。ご自宅に防災用のリュックや水、食料を必ず準備しておいてください。深夜の地震で停電しても安全に動けるよう、寝室にスリッパを置くといった備えも有効です。また、いつ起こるかかわからない災害を「自分ごと」として捉え、危険を予測する意識を日頃から持つようにしてほしいと思います。会社で実施する避難訓練なども、他人事だと思わずに参加していれば、いざというときに必ず役立ちます。常に電話の充電を心がけるなど、基本的なことの積み重ねが、ご自身の身を守ることに繋がります。